０８・わたしの最愛の淫魔

〈シチュエーション〉

本編０７の翌日。９月３週目のある日、１１時ごろ。

体育の授業を終えた主人公とうたは、認識阻害の力を使って、学校の裏庭で授乳プレイをする。本編０２での発言から、主人公は『自分の母乳の力が以前より強まっており、うたの性衝動を緩和する薬代わりになるのではないか』と考えたのである。

これは当たり、すっかり落ち着いたうたは、改めて主人公に感謝の気持ちを述べる。

ＳＥ１　外の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【０―１２秒ほど流して『うた』のセリフ】

【その後、ごく小さな音量でトラック終了まで流す】

●【正面】　１５センチ　下　３０センチ

■裏庭のベンチに寝そべり、主人公に頭を抱いてもらいながら乳首を吸っている。
母乳によって想定以上のエネルギーが注ぎ込まれ、激しいセックスをしなくても、例の『赤い薬』を飲まなくても大丈夫な程落ち着いている

「【うっとりとゆっくり乳首を吸う。幸せそうで、余裕がある】
んぁんむ……ちゅ❤
ちゅ❤　ちゅ❤　ちゅぷぅ❤
れるるる……ちゅぅ❤
ちゅっ❤　ちゅううう……ちゅぱ❤
ちゅっぱ。ちゅっぱ。ちゅぱぁぁ❤
【うっとりとため息をつき、少しぼーっとした感じで】
はぁぁっ……❤　何（なん）か、すご……❤」

〈主人公〉
「……どう、かな？」

「【とても嬉しい反面『ちょっとこの現実が信じられない……』という感じで】
……うん。何（なん）か、君の予想通り……かも。

前より楽になるのが早いっていうか、もらえるエネルギー自体が多くなってる気がする……❤

【再び乳首を吸う。幸せそうで、余裕がある】

ん❤　んんぅ……❤　ちゅ❤

ちゅ❤　ちゅ❤　ちゅぅ❤

でも……よく気づいたね？

一昨日（おととい）……正確には昨日か。

ちょっと『前より美味しい気がする』って言っただけなのに」

〈主人公〉

「凄く嬉しかったから、覚えてて……❤」

「【あまあまに、嬉しそうに】

ええ？❤　凄く嬉しかったから、覚えてたの？　可愛い❤」

●【正面】　0センチ　へ移動

■寝そべった状態のまま、上半身だけ上げてキスする

「【唇にキス】

ちゅ❤」

SE2　うたが起き上がる音
【最初から最後まで流す】
【小さめの音量で流す】

●【正面】　15センチ　へ移動
■一度身体を起こして、隣へ。ただし、主人公がうたの方を見て話しているので声は正面。
現在の自分について推測を述べる
「【※1まで、少し恥ずかしそうに、戸惑いつつ、真面目に】
……で。あの。
この現象は恐らく、君の考えた通り。
私の力が強まってる分、君も、その。
サキュバスに栄養あげる存在として、強くなってて。
つまり私が、えっちな君を見て沢山興奮して。
エネルギーの吸収効率が一番よくなってる時に、おっぱいもらう……。
っていうのを繰り返せば『目覚めの日』の前後でも、何とか赤いお薬なしで耐えられる
……かも。

やっぱまだちょっと、怖いから。
お薬は最終手段として、いつでも持っとくようにしとくけど……。
今は思った以上に、正気っていうか。
凄く頭がはっきりして。去年と全然違う……って思う……❤※1
【※2まで、はにかみつつ、嬉しそうに】
考えてみれば、そうだよね……❤
君のおっぱいは、完全に私用（わたしよう）のエネルギーとして作ってもらってる体液だから。
おまんこに尻尾入れて、身体の中の体液や粘膜舐めるより効率いいのも、当然だよね……❤
何（なん）か、今までこれを思いつかなかったのが信じられない位、納得できる話だよね」※2

〈主人公〉
「わたしがもっと、積極的に動いて。
自分の身体の事、研究所の人に話してたら、もっと早くにわかってたのかもしれないけどね……。
ごめんね、わたしも今まで思いつかなくて」

「【優しく主人公を気遣って】
……ううん。凄いよ。
ほとんどヒントないような所から、よく気づいてくれたよね。
【※3まで、少し申し訳なさそうに、自嘲気味に。
ゆっくりめに、一行ごとに少し間があく感じで】
……まぁ、もし私が、研究所の人にもっと自分のパートナーの事を話してて。
『恥ずかしい』とか『秘密にしたい』とか言わないで。
ちゃんとおっぱいもらってる事も伝えてたら、もっと早くわかったのかもしれないけどね。
私、ずっと
『身体が辛くても、自分一人で頑張ればいい』って。
『できるだけ君には普通の生活をしてほしい。
言いづらい事は、言わなくても済むようにしてあげたい』
『研究所の人達には、手のかからないサキュバスだって思われたい』
なんて考えてたから。
それが、よくなかったよね。
かえって皆に迷惑かけちゃってたよね……」※3

〈主人公〉
「そんな事ないよ……！　うたちゃんの気持ち、わたしはすごく嬉しかったよ。
でも、次の定期検診の時からは、わたしも一緒に行かせてね。
これからはもっと、協力できたらって思ってるから……！」

「【主人公の言葉に感激して、きゅんとなって】
あ……❤
【嬉しそうに頷き、幸せそうに】
うん……❤　ありがとう❤
君が恥ずかしかったり、嫌じゃないなら、次の検診からは一緒に行こう。
へへ。ほんとにありがとね……❤」

〈主人公〉
「うん……！」

●【正面】　0センチ　へ移動
※『ずいっ』と近づく※

■先ほどの体育で主人公が行った『うたを興奮させる方法』について述べる

「【かわいく、ぶつぶつと物申す。

『ちょっとあれはどうなの？　……嬉しいし興奮したけど……』という感じで】

……でもね？

いくら私を興奮させる為とはいえさぁ。

認識阻害で、周りに迷惑かけないからってさぁ。

『おっぱい揺れてるの興奮する。凄い見ちゃう』

って言ったからってさぁ～……❤

【『ノーブラ体育』でひとつの単語。『ブラジャーをつけずに体育をする事』という意味】

さっきの何？❤　ノーブラ体育とか、えっちすぎるんだけど……❤

Tシャツに乳首浮かせて❤

おっぱいばるんばるんしてるのエロすぎた……❤

【唇にキス】

ちゅ❤」

〈主人公〉

「あは……❤　どうだった？」

「【ぼそっと。でも、正直に認める】
滅茶苦茶興奮した。
ぷくってなってる乳首、押したかったし吸いたかった。
【あまあまに叱る】
すっごい頑張って、休み時間まで我慢したんだよ……？❤
もう、大事なおっぱいあんなに揺らして……❤
この変態❤
【唇に繰り返し、あまあまにキス】
ちゅ❤　ちゅ❤　ちゅ❤　ちゅぱぁ❤
大好き……。
※一呼吸あけてから※　話す
【『重要な事に気づいたんだけど……』という感じで切り出す】
てかさ？
もし私がほんとに、クイーンより上のサキュバスになれて。赤ちゃん作れたら。
君のおっぱい、私だけのじゃなくなっちゃうんだよね……。
だから私は。将来のママとして
『赤ちゃんの為にも、おっぱい大事にしてくれなきゃやだよ……？❤』
って言うべきなんだけど。

【もじもじと】
なんだけど……」

SE3　うたが再び寝そべる音
【最初から最後まで流す】
【小さめの音量で流す】

●【正面】　15センチ　下　30センチ
■再び元のポジションに戻って
「今は……独占させてね。
【うっとりとゆっくり乳首を吸う。幸せそうで、余裕がある】
れぇろっ……ちゅっ❤　ちゅっ❤　ちゅっ❤　ちゅ❤
【とてもホッとしたように】
あぁ……嘘みたいに落ち着く……。
君がずっと。身体も心も全部使って、私を支えてくれてるんだね。
大好きだよ」

●【正面】　0センチ　へ移動

※『ずいっ』と近づく※

「【唇にキス】

ちゅ❤

■本編０３での一件と、これまでの様々な事に関して感謝の気持ちを伝える

※少し間をあけてから※　話す

【※４まで、恥ずかしそうに照れながらも、とても嬉しそうに、幸せそうに。

主人公に真剣な想いを伝える】

後（あと）、あのね……❤

言えてなかったんだけど。

……昨日。

駅で口でしてくれて、ありがとね。

凄く嬉しかった……❤

あの……私の、尻尾ね。

最初生えて来た時、私だって気持ち悪いって思ったのに。

君は最初から好きになってくれたよね。

傷つけたり、嫌な思いさせたりした事も沢山あるのに。

君は、私がどれだけおかしくなっても、必ずこうして一緒にいてくれて。

解決する方法を探してくれる……。

いつも本当にありがとう。
【『生涯絶対君だけ』＝『生涯愛する人は主人公だけ』】
私には、生涯絶対君だけ。
大好きだよ。
こんな私だけど……これからも、どうかよろしくね。
……絶対。幸せにするからね❤」

〈主人公〉
「うたちゃん……❤　わたしも好き。大好きだよ❤
何があっても絶対離れない。一生幸せにするからね。
二人でお互いの事幸せにしようって頑張れたら、わたしたちきっと無敵だよ。
そういう二人になっていけたらいいよね……❤」

「【照れ笑いして、幸せそうに】
えへ……❤　うん。
そうだね。
二人でお互いの事幸せにすれば、私達、無敵だね❤
だから……。へへ。

【優しい声で、素直に甘えて】
もうちょっとだけ。もうちょっとだけ甘えさせてね……❤
【唇にキス】
ちゅ❤」※4
ここでフェードアウトして終了。